

2025年度 学位記・修了証書授与式 祝辞

東京理科大学を卒業・修了される皆さん、ご卒業おめでとうございます。
学校法人を代表し、心からお祝いを申し上げます。

また、これまで皆さんを温かく見守り、支えてこられたご家族・関係者の皆様におかれましても、本日の佳き日を皆さんが立派に迎えられましたことを、心よりお慶び申し上げます。

皆さんは、東京理科大学において、友人や先輩、教職員など多くの方々に支えられながら、学部生、大学院生として、それぞれの課程に真摯に向き合い、努力と研鑽を積み重ねてこられました。その成果として、本日ここに学位記・修了証書を手にされる皆さんに、深い敬意を表します。

本学は、明治時代が始まったばかりの 1881 年に、皆さんとほぼ同じ年頃の 21 名の若き学徒たちが私財を投じ、幾多の困難を乗り越えて創設されました。当時の日本は社会基盤が大きく変化を遂げる、まさに激動の時期でしたが、彼らは、そんな困難な状況においても、理学を学ぶ機会を与えられたことへの感謝と、本学の建学の精神ともなった「理学の普及を以て国運発展の基礎とする」という高い理想を胸に、歩みを始めました。その精神は 140 年以上の時を経た今も、本学の教育と研究の根幹として、脈々と受け継がれています。

これまでに本学を巣立った卒業生は約 23 万人に上り、教育、産業、行政など多様な分野において、我が国のみならず世界の発展を支える存在として活躍してこられました。本日から皆さんも、その伝統ある校友ネットワークの一員となることを、心より歓迎したいと思います。

現在、本学は 2031 年の創立 150 周年、さらにはその先を見据え、「世界の未来を拓く TUS」を掲げ、教育・研究環境のさらなる充実と大学改革に取り組んでいます。この「世界の未来を拓く」という言葉には、科学技術の力によって、気候変動やエネルギー、資源、社会構造の変化など、世界が直面する課題に真正面から向き合い、人類社会の持続的な発展に貢献する世界規模の新たな価値を創出していくという決意が込められています。同時に、建学以来受け継がれてきた、「何事にも積極的に挑戦する高い意識を持つ人材を育成していきたい」という強い思いを表すものでもあります。

皆さんがこれから歩まれる社会は、かつてないほどに変化が激しく、先行きが見通しにくい、まさに不安定と困難の連続でありましょう。特に今、日本では生成 AI をはじめとする先端技術の活用や、持続可能な社会の実現に向けた取り組みが加速しており、理工系人材の役割は一層重要となっています。一方で今後、我が国の理工系の卒業以上の人材は大きく不足が見込まれており、時代が求める能力を備えた人材として、皆さんへの期待はますます高まっているのです。今こそ、皆さんが本学で培った専門知識や、卒業研究や実験実習等を通じて身に付けてきた、課題を解決するために論理的に考え抜く力、そして困難に直

面しても挑戦を続ける姿勢が、大きな力となるはずです。これまで皆さんが大学で得た経験に自信を持って、今後も努力を怠ることなく、自らの強みを信じて、失敗を恐れずに、一步一步着実に前へ進んでください。

実業家の松下幸之助は、人の育成において「長所に七分、短所に三分」という言葉で、人の長所を生かすことの大切さを説き、その考えのもとで事業を広げ、世界的企業の礎を築きました。欠点に目を向けるのではなく、良いところを見いだし伸ばしていくことで、人は自信を得て持てる力を最大限に発揮できるようになるということです。これは将来、皆さんがリーダーとなった時に、集団や組織を導く上で大切な視点であると同時に、今生きている私たち一人ひとりが、この先、自分自身の成長と学びを続けていく上で、決して忘れてはならない姿勢です。本学で学ばれた皆さんには、それぞれ異なる素晴らしい個性や強みがあるわけですから、他人と比べて足りない部分にとらわれるのではなく、是非自分ならではの持ち味を見極め、それを磨くことに力を注いでください。その積み重ねこそが、皆さん自身の道を切り拓く原動力になるはずです。

我々理科大は、世界のより良い未来を拓くために、教育や研究の一層の高度化を目指して、今後も挑戦を続けてまいります。これから卒業される皆さんにも、理科大とともに成長する存在であってほしいと願っています。どうぞ本学で学んだことに誇りを持って大いに活躍され、必要な時には、学び直しや新たな挑戦の場として、いつでもこの場所に戻ってきてください。

結びに、皆さんの前途に多くの実りがあること、そして心身の健康を保ちながら、豊かで充実した人生を歩まれることを祈念し、私のお祝いの言葉といたします。本日は誠におめでとうございます。

2026年3月20日
学校法人 東京理科大学
理事長 浜本 隆之